

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

最後になりますけど、糸魚川には 24 サイトがあるということで、小さい子供にはすごろくゲーム・カードゲーム、また小学生・中学生にはジオサイトを紹介する英会話教材で、子供たちが英会話で紹介できるような教材とか、高校生にはジオパーク関連の商品開発などアイデアを募るなど、ジオパークに間接的に学んでもらえるような企画、また楽しく学べる環境整備というものがいいかなと思いますので、そういった取り組みもぜひ積極的に行っていただきたいと思います。それも要望させていただきます。

あと、ジオパークの聖地化であります。市長のこれまでのいろんな努力、また市の職員、市民の努力によってここまで来ているわけですから、何とかこのジオパークの聖地化に向けて努力していただきたいと思いますので、そのことを最後に要望して、私からの一般質問とさせていただきます。

ありがとうございました。

○ 議長（倉又 稔君）

以上で保坂議員の質問が終わりました。

暫時休憩します。

再開を 3 時 25 分といたします。

午後 3 時 11 分 休憩

午後 3 時 25 分 開議

+

○ 議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を開きます。

次に中村実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

中村議員。〔9 番 中村 実君登壇〕

○ 9 番（中村 実君）

創生クラブの中村です。災害対策について 1 回目の質問を行います。

糸魚川市では過去に大きな災害が幾度も発生し、多くの尊い命が失われてきました。最近では防災対策も進み、河川の氾濫や地すべり等も減少してきたと感じています。その災害の中に防災対策や防災訓練の難しい新潟焼山の噴火や大規模地震があります。新潟焼山では 10 月 10 日に避難訓練が行われ、多くの課題も残ったようですが、今後の対策も見えてきたと思います。また大規模地震では津波に対して、避難訓練が行われてきましたが、その他の対策が進んでいないように思います。そこで次の点について伺います。

1、新潟焼山火山災害避難訓練の成果と反省点は。

2、個人住宅の耐震診断・耐震工事の進捗率は。

以上で 1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

中村議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、3名が犠牲となった火山災害から40年が経過しましたが、災害を振り返り、早川地区全域では初めてとなる、住民避難訓練を実施し、特に上早川地区では住民の約半数が参加した意義は大変大きかったと考えております。今回の訓練で課題となった情報伝達、避難方法等を検証し、避難計画に反映するとともに、今後も総合的な訓練を実施してまいります。

2点目につきましては、耐震診断の実績は18年度から131件で、このうち耐震改修工事が行われましたのは2件、実施されております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部課長からの答弁もごさいますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

それでは2回目の質問を行います。

今回の訓練を通して1つでも多くの課題を見つけ出すということが次につながるというふうに思っております。今回大変有意義な訓練であったと思いますが、今回の訓練には子供たちの通学途中の避難訓練や学校での訓練は行われなかったようですが、私は子供たちも巻き込んだ訓練を今回行う必要があったのではないかなというふうに思うのですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

委員のご質問にお答えいたします。

県では今年度の重点の1つとして、防災教育を挙げております。そこでは家庭や地域と連携し、体系的な防災教育を推進することが大切だというふうに述べられており、各小・中学校では防災教育に取り組んでいるところであります。委員ご指摘のとおり、家庭や地域と連携した防災教育は必要でありますし、また災害はいつ、どこで起こるかわかりません。いろんな場面を想定しての避難訓練ですとか、保護者への引き渡し訓練とかということも取り組んでいかなければならないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

総文の実施結果報告書には、次回は平日の昼間、学校や企業を巻き込んだ訓練を実施する必要がある

あるというふうに書かれておりました。今回この計画段階では教育委員会と話がなかったのかどうか分かりませんが、大人の場合は御嶽山の噴火等テレビや新聞等である程度の防災知識を得ることができるというふうには私は思っているんですが、やはり子供はテレビや新聞等からは、なかなか知識を得ることは難しく、やはり学校で実際に避難訓練を行わないと、防災意識をなかなか高められないというふうには私は思っているんですね。だからどうしても一度、体で体験させたほうが私はいいいというふうには思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

ご指摘のとおりだと思います。各校では避難訓練を複数回実施をしております。ですが、全てが災害というわけではありません。1回は不審者想定ということもございます。ですが、学校ではいろんな場面を想定をし、避難訓練を実施している学校もございます。ある学校では運動会やっている最中に突然、校長の判断で避難訓練を行うというような学校もあったというふうに聞いておりますが、全ての学校で家庭や地域を巻き込んだ避難訓練・防災教育をしているかという、まだまだ不十分なところもあるように思います。ですので、多くの学校で家庭や地域を巻き込んだ、そのような避難訓練ができるように、また学校に指導していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

今ほどの答弁のように、学校にいるときは先生方の誘導で避難することができるんですね。ただ、通学途中に、今回の場合、噴火があった場合には子供たちの判断で自分の命を守ることをしていただけない。だからいざというきのために、学校でやるのも大事ですけども、通学路、そういうときでも、いつ災害があっても避難できるという、そういう教育をしっかりといただきたいというふうに思います。学校でそういう教育をすることによって、家に帰って家族と防災について話し合いができる。そういう家族の輪もできるのではないかなと私は思うのですが、教育長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。議員言われるとおりかなということを感じます。学校で行う訓練については、ある程度の形が決まってくるわけですが、通学路の途中の訓練というのは非常に難しいなという気がいたします。その訓練を行うことはできませんから、結局はジオ学習に非常につながってくるかなと思うんですが、小さいときから家族と一緒に、地域を散策してみる、そしてそういう生活体験を通しながらどこが安全なのか、それからどこが高くてどこが低いのか、そういうようなことを自然に学び取っていくということが大事なんだろうなという思いがいたします。やはりそうい

うことが自分から身を守ることにつながっていく、避難行動につながっていくだろうと思います。そういう散策を通しながら、ここは安全なんだというような保護者からの指導を受けることによって、その場での指導もできるし、帰ってから、家族との会話というのも生まれてくのではないかなと、そういうように考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。〔 9 番 中村 実君登壇 〕

○ 9 番（中村 実君）

私もそのとおりだと思っております。学校で習ったりすることは、自分だけのことでなくて、防災にかかわれば家族と話ができるということで、そこから家族の輪ができて、地域をよくするということができると思いますので、今後もそういう指導をぜひお願いしたいと思います。

それからもう 1 点、焼山では毎年砂防堰堤工事が行われておりますが、噴火があれば一番最初に被害に遭うのは、現場の人たちや登山者だというふうに思っております。これも今回、訓練の中に入っていなかったわけではありますが、これは既にマニュアルができているということで訓練に入れなかったのかどうかお聞きします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔 消防長 大滝正史君登壇 〕

○ 消防長（大滝正史君）

+

+

今ほどの中村議員の作業員・登山者、それからマニュアルというご質問でありますけれども、今回の訓練は住民の避難訓練、それから関係機関との連携確認というところに重点を置いて、実施をしたところでございます。山頂付近の安全対策につきましては避難計画に反映されておりますので、今後、入山者に対する対応訓練も取り入れていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

いろいろなマニュアルがあるかと思いますが、実際に訓練することによって、またいろいろな課題が出てくるのではないかなというふうに思っておりますので、ぜひ次回は現場、また、子供たちを巻き込んだ防災をしていただきたいと思います。

新潟焼山は 1974 年 4 月 28 日に噴火をいたしまして、当時団員だった樋口議員も捜査に当たっております。山頂から 600 メートルほど下がったところに登山者の千葉大生 3 人を発見いたしましたが、既に 3 人とも死亡していたということです。テントの外で後頭部に噴石を受けて亡くな

っていたそうですが、もし近くに避難用ドームがあれば助かったのではないかなというふうにも思います。今後も焼山で避難用ドームをふやしていく必要があるというふうに思います。前からこのような話が何度か出てきたわけですが、今回、改めて避難訓練を行いまして、またその必要性を感じたのではないかなというふうに思いますが、市長いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

昨年、直接焼山に登山させていただいて、調査をさせていただきました。そしていろいろ地元の皆さんからご案内いただく中で、その辺をいろいろ、この現地でお示しさせていただいたものですから、非常にわかりやすく理解もできました。そのようなことから即避難といいましょうか、蒸気噴火、同じようなものが起きたときのシェルターだとか、また、当市のみならず、これは接してある自治体は小谷村、また妙高市でございますので、この両市・村長の皆さんにお話をして、一体となって対応していただきたい話もさせていただいております。また、行政官庁のほうにもシェルターの必要性を述べさせていただいております。我々といましては、焼山が噴火して被害をこうむるのは糸魚川市だろうという思いで、皆さん方をお願いをし、また施設整備をお願いをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

ありがとうございます。焼山も登山を許可している以上は、そういう安全対策もしっかりとやっていかなければいけないというふうに思いますが、大変高額なお金がかかるということで、計画的に進めていく必要があるというふうに思っております。

消防長に伺いますが、1974年の焼山噴火の資料、それは当然残っているというふうに思いますが、樋口議員からも貴重な生の声を聞き、次回の訓練に生かしていく必要があると思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

今回の訓練を実施するに当たりまして、樋口議員からも貴重なご意見をいただいております。今回実施できなかったものにつきましては、引き続きご意見をいただきながら訓練の計画をしていきたいというふうに考えておりますし、また、広く知識を持った方々から意見をいただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

なかなか体験できるというか、そういう場面に出くわすことがないわけでありますので、やはりそういう体験は貴重だと思うんですね。そういうことを聞きながら、果たしてどんなところに避難ドームが必要なのかということもあわせてお聞きできればというふうに思っております。

昨年の 9 月 27 日、御嶽山が噴火しまして、死者 58 名、行方不明者 5 名という、戦後最悪の火山災害が発生いたしました。御嶽山の災害が今回、この避難訓練にどのように生かされていたのか、多分、その体験が生かされていたというふうに思うのですが、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○ 消防長（大滝正史君）

先ほど申し上げたとおり、今回の訓練は住民の避難に重点を置いたもので、御嶽山の火山災害のような、入山者に対しての訓練は実施いたしませんでしたが、全国的に発生している火山の噴火に対しまして、住民の皆さんも非常に身近なこととして捉えておられると思います。やっぱり避難訓練には参加しなければいけないと感じられたというふうに思います。住民の皆さんの火山災害に対する意識の向上に生かされたというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

多くの人が山の上で亡くなったわけですが、当然噴火した下流の住民の方たちも大変びっくりしたのではないかなというふうに思います。ここに「検証・御嶽山噴火」という、信濃毎日が発行した本であります。この本は、再び被害を繰り返さないために火山列島に暮らす全ての人への教訓、9.27 から何を学ぶという表紙から始まって、最後には、火山防災意識を高めるには市民自身の学びが不可欠であり、地元の火山を知り、知識を伝える人材育成を広げたい。その 1 つが、特徴的な地形や地質が見られるジオパークの取り組みであり、活動の周期が長く、災害発生の頻度の低い火山への理解を深めたい。特に子供たちに伝えていく環境を整えたいというふうに最後はくられております。これから糸魚川市を担う子供たちに、ジオパークを通して防災・減災に役立つ避難ではなくて知識を今後つけていく必要があると思うんですが、その辺はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○ 交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。ジオパークの 3 要素は、保護・保全・地域振興といった 3 本柱のほかに防災教育というもの非常に大きな役割を果たしております。地域を知り、その地域から、何の、こういった災害が起きて、それに対してどう逃げていけばという取り組みが非常に重要になってくるわけでありまして、現在、防災教育チャレンジプランといった取り組みがあります。防災教育のいわ

ゆる全国大会であります。4年前から糸魚川の学校も参加しております。23年、24年と根知小学校が参加しておりますが、そのときのテーマが「根知小発！ジオパークの大自然と向き合う地域防災教育。」これで23年度は防災教育特別賞、さらに24年には防災教育大賞を受賞しております。また、その翌年は「大和川小学校発！ジオパークの海と向き合う地域防災教育」といった取り組みで2年続けてこの防災教育チャレンジブランのほうに出しております。こういった取り組みを通じながら、ジオパーク、すなわち地域の自然を知ること、どう災害に向き合っていくかといった教育というものが非常に重要になってくると思いますし、それに向けた取り組みを今後も進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

3年生以上に配付をしております「まると糸魚川資料集」という資料集がございます。これを学校ではジオパーク活動に使っております。この資料集にはジオサイトが出ておりますが、そこにも大地の動きによる自然災害というページがありまして、また、あるジオサイトでは7.11水害のことについても示されております。こういったことでジオパークを学ぶことと、また有益な面もありますが、そういう自然災害もあるのだということについても学習しているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

ジオパークというと景色がいいとか、そういうイメージが大変強いんですが、私はこの一般質問を話すに当たって、少し私の記憶している災害というのを調べてみました。私が記憶しているやつだけなんで、いろいろあるかと思いますが、私が災害に遭っているんですけど、昭和38年、小泊の地すべり、このときは4人が亡くなって、玉ノ木の地すべりは60年、これは10人、そして61年、柵口の雪崩では13人、7.11の水害、そして蒲原沢では14人、これざっと調べるだけで41人の方が既に亡くなってるんですね。だからこういったところを子供たちにしっかり学ばせて、実際にあったことを、今の風景だけじゃなくて、地質も大事でしょうが、こういうものを防災教育として教えていく必要があると、生の話をしっかりしていく必要があると私は思うんですけど、その辺はどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

おっしゃるとおりかと思います。焼山の火山について学んだ上早川小学校の子供たちは、昨年度、焼山火山のことについてのシンポジウムに出席をしておりましたが、その際にも、焼山から非常に恩恵を受けていること、自然もあるし、そして温泉もあるし、そういう恩恵もあるけれども、こういう災害もありましたということ、学んでいたことを発表しておりました。

やっぱり実際に、議員おっしゃったような災害について実際に学んでいくということも非常に大きなことだと、大切なことだと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

ぜひ、こういう生の話もしっかりとして、糸魚川市にはいろんな災害が多いんだと、今回の焼山近くに住んでいる人たちは、焼山だけの災害ではなくて、地すべりもあるし雪崩もあるしというような、そういうことも教えていただきたいというふうに思っております。

過去の私の質問の中で、焼山火山防災マップについて質問をしたことがあります。防災マップは早川地区に限定して配布するという答弁をいただきました。そのときに私は、やはり市民が同じ防災意識を持つことが必要であるということで、全戸配布をお願いしたところ、市長より全戸配布しますという前向きな答弁があったというふうに私は記憶してるんですが、今回は全戸配布されていないと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

早川流域のみの配布で、市内全域での配布はいたしておりません。新潟焼山火山防災協議会で、今回の訓練結果を検証いたしまして、避難計画に反映した上で、新潟焼山の火山防災の概要版として全戸配布に向けて進めていきたいと、そう考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

ということは早川地区に配ったやつはとりあえずで、また新たにつくり直して配布するというところでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

現在配布したものに基きまして、避難訓練を実施していただいたわけですが、当然そこで、現場での修正というものも出てくると思います。そういうものを再度火山防災協議会の中で協議をいたしまして、避難経路とかそういうようなことにつきまして修正を加えた上で、そういう場合には当然マップの修正というのもあり得るところでございますけれども、早川流域以外につきましては、先ほど申し上げたとおり概要版での対応をしたいというような考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

概要版だけでなく、同じマップを配るべきだというふうに私は思うんですよ。焼山火山は早川地域だけの問題であると、じゃあ浜のほうへ行けば、津波は海の人たちだけでいいんだ。じゃあ概要版は山のほうへ配るんですか。そういう感覚じゃなくて、市民が同じ防災意識を持つためには、しっかりとした同じものを配布しなきゃいけないということを私は言ってるんです。その辺どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。今ほどの議員の提言を受けまして、どのような形で市民周知が十分できるかということを検討してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

前に市長、多分そういう答弁されたと思うんですけど、全戸配布しますという答弁を受けているんですよね。その辺を確認して、全戸同じものを、しっかりしたものを、津波であっても、姫川であっても何でも、同じものを配るということは必要だというふうに思います。

次に大規模地震について伺います。東北大震災の後、糸魚川市では津波訓練や地すべり訓練などが行われてきましたが、家屋の倒壊についてはあまり周知されていないというふうに思います。糸魚川市では平成 18 年から耐震診断や耐震改修工事が始まったということですが、あまり耐震改修工事は進んでいないのかなというふうに思っております。進んでいないというか、今ほど 2 件ですよ。既にもう 10 年近くたっているわけですが、そこで、個人住宅の耐震診断数と耐震改修工事件数の確認、それからもう 1 点、市内に耐震補強制度に当てはまるとされる家屋が全体の何%ぐらいあるのか、わかる範囲でよろしいんですけど伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

市長が答弁しましたとおり、平成 18 年度から個人住宅の耐震診断の補助事業を実施しております。現在までの耐震診断の実績は 131 件で、このうち 2 件の耐震改修工事を実施しております。それから耐震補強制度に当てはまる家屋の数でございますけれども、平成 25 年の総務省の住宅土地調査による市内の木造住宅の市内の総数は 1 万 4,960 戸で、このうち耐震改修補助制度の対象となります昭和 56 年 5 月 31 日以前に建てられた旧耐震基準による住宅の戸数は不明であります。その直前までの昭和 55 年以前に建てられた住宅の数は 7,230 戸でありまして、その率にしまして 48.3%となっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

私は前の家のときに耐震診断していただいたんです。そしてもう補強しなきゃいけないということで、そのときにもらった資料の中で、昭和55年以降に建てられた建物、旧耐震建物98%は耐震性に問題あると、56年度以降に建てられた建物でも、新耐震基準建物の84%が耐震性に問題があるという、これは日本木造住宅耐震補強事業者協同組合という東京のほうに事務所があるものを、資料一緒に私、いただいたんですけども、糸魚川市でも多分同じぐらいの数字が出てくるのではないかなというふうに思っております。実際にこの耐震工事、私も行おうと思ったんですけど、間取りが思うようにいかない、また、新築するほどのお金がかかるということで、私もほとんど建てかえということになったわけですが、そのような今の状況では、多分耐震改修工事は進んでいかないというふうに思います。糸魚川市としても新たな何か対策を、10年でこれ2件ですからね、9年ですか。新たな対策を考えているのかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

申橋建設課長。〔建設課長 申橋秀樹君登壇〕

○建設課長（申橋秀樹君）

耐震改修がなかなか進まない理由の1つとしましては、耐震化に要する費用が非常に多くかかるということが考えられます。個人財産への公費の投入という観点から、個人住宅の耐震改修に係る費用にどこまで踏み込んで公費の投入ができるかが課題となっております。このような考えから国の補助金の増額が望めない状況の中で、現在、市が実施している耐震改修補助制度の内容を見直すことを今検討しているところであります。

それから、そのほかに部分的な耐震改修にも補助ができないかと検討してきましたけども、改修後の耐震評価指数が1.0以上にならない建物には耐震改修は、倒壊する可能性がありますので、耐震改修補助制度の趣旨に合致しないため、部分的な耐震改修の補助制度については断念しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

前に私、今そういう答弁いただいてちょっと思い出したんですけど、これだけ改修工事が進まないんならば、1部屋だけでも安全な部屋を確保するべきだという話もさせてもらったことあるんですけども、1にいかないということで、補助制度にならないということで却下されたわけですが。大阪狭山市ではシングルベッドが2台入る大きさの住宅用シェルターの設置を呼びかけて、工期はたった2日間で終わるということで、床の弱いところは補強をしなければいけないんですが、補強をしなければ大体2日間で終わって、工事費が25万から40万ほどでできるということで、狭山市は今これに一生懸命取り組んでいるということです。大阪府でも大阪府住宅建築物耐震10年戦

略プランというのを立ち上げまして、居住空間の安全確保を図るため、1部屋をシェルターにし、現状より耐震性を向上させる簡易な耐震改修で、生命の危険を低減することを、命を守る耐震化と定義づけてシェルターの設置を進めているという状況であります。私も調べてみたんですけど、写真がちっちゃいんでわからないかと思いますが、寝室としてこの場合は使っている、これがあるとそこに逃げ込めるということで命を守れるということ、糸魚川市としてもこの耐震工事改修が進まないということになれば、新たなこういうものも考えていくという必要があると思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

耐震シェルターの設置は、耐震改修工事と比較しまして安価な経費で命を守ることができるということで、非常に有効な手段であると認識しております。県内でも新潟市・長岡市・魚沼市・阿賀野市・妙高市など9市町で補助事業を実施しておりまして、当市でも同様な住宅耐震用シェルターを補助対象とすることにできないかということで、今検討している最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

たまたまこの前、テレビでもシェルターの報道をやっておりました。シェルターを古家にセットしまして、上から圧力をかけまして建物をつぶして、しっかりしたシェルターが残るという、そういう実験だったんですが、まあ大したもんだなあというふうに思います。

阪神淡路大震災のときは、大体あの建物、2階の重みで1階がつぶれて、がれきの下敷きになって圧死した人と、それから、がれきに閉じ込められて逃げ出せなくて焼死したという人が大変多くありました。やっぱりこれを防ぐためにはこういったシェルターが必要だということで開発されたということであります。経費が40万ぐらいたということなんで、今の補助制度が幾ら補助つけているのかわからないですが、糸魚川市としても、やっぱり全額補助してでもこういうものを進めて行く必要があるのではないかというふうに思うんですがいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

串橋建設課長。〔建設課長 串橋秀樹君登壇〕

○建設課長（串橋秀樹君）

県内外の市町村の補助事業について調べましたところ、耐震シェルターを設置の場合、補助限度額を30万、40万と設定している市町村が非常に数多く見られております。今後も、当市も検討してまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

ぜひお願いいたします。安価な単価ですぐできるということでもあります。土台をしっかりさせても五、六十万から 100 万以内では自分の命が守れるようなものになるのではないかなと思いますのでよろしくお願いいたします。

それから、NTT 東日本ではタウンページ＆ハローページ上越版と防災タウンページを上越市の全世帯と事業所に無料配布しております。こういったものですね。避難所がわかるようなもの。それから東京都では、舛添知事が 30 年以内に 70% の確率で発生すると予測されている直下型地震に向けて東京防災、先ほど保坂議員が言っておりました東京防災、これを全都民に無料配布をしている。糸魚川でも、先ほど私が申しましたけど、いろんな災害が考えられ、いつ発生するかわからないということでもありますので、そのような災害に向けて、東京防災のようなそういうものをつくっていく必要があるのではないかなというふうに思いますが、市長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。非常に糸魚川市はご承知のとおり自然が豊かであるがゆえに、自然災害に多く見舞われる危険も多いのではないかなと思うわけでございますので、その辺をどのぐらいになるのか、ボリューム等もあるわけでありましたが、あまり厚くなってしまうと誰も見ないというのも起きる可能性があります。皆さんが理解できるようなものをつくっていきなと、今ご意見をお聞きする中では感じておりますので、しかしなかなか横一線にはならん部分があるかと思うわけでございますので、関連するものを取り上げてスタートすればいいのかなとか、いろいろ考えられるわけでございますので、まずは取り組める部分について考えて進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○ 9 番（中村 実君）

ありがとうございます。最近異常に激しい雨が降ったりというようなことが、100 年に一度と言われるような自然災害があちこちで発生しておりますが、糸魚川市ではそういう災害もないということで安心してありますが、東京防災、大変わかりやすい防災であります。さっき保坂議員が言われた、これが黄色い本で東京防災。大変中がわかりやすくつくられております。そして、これには防災マップという地図がついてまして、近くの避難所等が書き入れられております。このような東京防災、これ私もまだしっかり読んでいないんですけど、職員の方でこれを読んだ方がいらしたら意見を聞かせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

テレビ・新聞等で報道をされたところでございます。東京都が作成したものでさまざまな災害に

対する備えなど、そういう情報をわかりやすくまとめたものであるというふうに承知はしておりますけれども、まだ読んでおりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

後ほど消防長に渡しますので、よかったら皆さん読んで目を通していただきたいと思います。市長もちょっと目を通していただければなというふうに思います。

結構、中見るとわかりやすく書いてあるんですが、防災に対してハードの事業というのはなかなか進まないと思うんですが、これぐらいの本なら、糸魚川市はこんなに厚くなくてもいいのか。これならソフト事業ということで対応できるように私は思うんですけど、市民の生命・財産を守るにはこういうものも必要になってくると思うんですが、市長改めてどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。内容を見させていただいて、検討させていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

中村議員。

○9番（中村 実君）

ぜひ後ほど読んでいただきたいなというふうに思っています。これに、都民の皆様へという舁添東京都知事の一文が書かれております。この内容は、都民の皆さんが災害の発生を見越してどのように事前の備えを行い、災害が発生したときにどう行動したらよいのか、各家庭における防災の指針となるよう東京防災としてまとめました。1家に1冊、この東京防災を常備し、災害に対する備えを万全とし、ともに世界一安全な、安全安心な都市を実現していきましょうというふうに、これ知事のほうで書かれております。米田市長も糸魚川市の市民の安全安心を願うのは東京都知事に負けないほどあるというふうに思っております。何よりも市民の生命・財産、重いものがあります。ぜひこういうものも参考にさせていただきまして、命を守る対策に取り組んでいただきたいというふうにお願いいたしまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（倉又 稔君）

以上で中村議員の質問が終わりました。なお、答弁者へ申し上げます。先ほどの消防長より、既に一般質問の終了した質問に対しての訂正がありましたが、答弁の訂正を求める場合は事前に議長に発言を求めてください。タイミングを見て発言を許します。

+